

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 駒田
日 時	令和5年9月13日（火曜日）	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 10 時 55 分
出席委員	◎木村、○法貴、林、片山、山木、小川、齊藤		
出席理事者	【産業観光部】松本部長 【農林振興課】高木課長、中川副課長兼営農推進係長事務取扱、向出担い手支援係長 【農地整備課】鹿島課長 【まちづくり推進部】信部部長、清水事業担当部長 【都市計画課】田中課長 【桂川・道路交通課】石田課長 【土木管理課】森課長		
出席事務局	井上事務局長、駒田主査		
傍聴者	市民 1 名	報道関係者 1 名	議員 5 名（大西、富谷、梅本、山本、平本）

会 議 の 概 要

10:00

1 開議（木村委員長あいさつ）

[事務局日程説明]

2 所管分付託議案審査（説明～質疑）

[産業観光部入室]

[産業観光部所管議案審査]

・産業観光部長あいさつ

（1）第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計補正予算（第4号）

・所管課長順次説明（歳出・歳入一括）

10:12

[質疑]

<齊藤委員>

農業事務経費の天川農業用共同作業所の除却について、鉄骨造の1棟はほかの3棟よりも築年数が浅く、まだ使用できるのではないか。

<農林振興課長>

御指摘の1棟は農機具の保管庫として活用されていたが、今回天川地区内で別途保管場所を確保され、当該保管庫が不要になったことから除却することとした。

<齊藤委員>

除却した後はどうするのか。

<農林振興課長>

一旦更地とする。また、農業振興に係る施設であるため行政財産として管理していたが、農業分野の施設ではなくなることから、今後は普通財産に移管する方向で担当課としては考えている。

<山木委員>

有機農業推進事業経費の安全・安心農産物生産支援補助金について、施用堆肥においてさくら有機とその他畜産堆肥を区分されているが、この比率は決まっていのか。

<農林振興課長>

比率は定めているものではなく、施用する堆肥は各農家組合などに委ねている。

<山木委員>

亀岡市土づくりセンターで製造するさくら有機の利用を促進することにより、問題になっている臭気の軽減にもつながると思う。オーガニックビレッジ宣言をしている亀岡市として、利用促進を図っていただきたい。これは要望としておく。

<木村委員長>

どの畜産堆肥を施用しても補助率は現状一定であるが、さくら有機のみ補助率を上げるなど、利用促進につながる取組を今後お願いしたい。

<片山委員>

有機農業推進事業経費の有機農業推進事業補助金について、収量が当初見込みから10倍増加、面積も2ヘクタールが11ヘクタールになると見込まれている。かなり多くなっているが、当初見込みの2ヘクタールはどのように積算したものであったのか。

<農林振興課長>

令和4年度産の生産者が1組しかおらず、当初予算を積算する段階では生産量が想定できなかった。実績として令和4年度の1組で80アール、1.5トンの収量があったため、2倍程度増加することを見込んだ上で積算している。

<産業観光部長>

有機米を学校給食に使いたいということで募集したところ、子どもたちのためにぜひ協力したいという農家から予想以上の応募があり、想定よりも面積がかなり大きくなったため今回補正予算に計上したものである。

<片山委員>

面積的なことは承知した。有機米の生産についてはよい取組であると思っている。反収も今回300キログラムまで増加すると見込まれているが、慣行栽培から有機栽培に切り替えた場合に、今後も安定的に反収があるものなのか。

<農林振興課長>

今回新たに有機米を栽培いただくことになる農家のうち、従前から米をメインで作られていた農家が多いためそのように見込んでいる。

<齊藤委員>

地域営農担い手条件整備事業経費のJA京都育苗センター内の設備更新への補助に関して、JAの組合組織へ市が一般財源で補助しているが、農家の米が安く買いたたかかれている現状がある。本来であれば組合独自で投資していかないといけないものであるが、今回の補助に当たってそのあたりを一言言わないといけないのか。

<農林振興課長>

JAの育苗センターについては、昭和61年度に農林漁業同和对策事業を活用して市が建設したものをJAに移管されたという経過がある。また、この育苗センターは南丹市も管轄しており、全体の8割程度が亀岡市に供給されていることから、そ

の供給割合により補助率を積算している。

<齊藤委員>

市からJAへ移管したものであるので、いつまでも市が修繕すべきものではないのではないか。

<産業観光部長>

育苗苗に関して亀岡市内で需要が高まっていると聞いている。これまでは各農家で作られていたことが多かったが、集落営農で取りまとめて育苗することが多くなってきており、各集落で希望があれば機械購入などへの補助率を上げて対応している。その集落でも請け負えないところがJAに育苗苗を頼まれており、資材価格の高騰などにより育苗苗の価格も高くなってきている。その中で、JAに対しては農家の負担にならないようできるだけ安価で提供いただくために機械支援などを行っており、行政としても条件を付けて交付していきたいと思っている。

<齊藤委員>

物価高騰などもあるが、米の買取り価格は変わっておらず、農家のためにしっかりと考えて対応いただきたい。また、同和対策事業はすでになくなっているため、切り離して考えていかなければならない。

<産業観光部長>

米の買取り価格が変わらず、経費が厳しいということも聞いている。関係機関ともしっかり連携しながら対応していきたい。

<片山委員>

JA京都育苗センター内の設備更新に関して、一定の設備更新に対する補助というのは理解するが、齊藤委員からもあったように米の買取り価格はあまり変わっていない上に、10月からインボイス制度が開始し、JAは消費税を被らない分を農家の出荷価格から差し引くことになる。実態としては米の買取り価格が下がるという厳しい状況の中でJAに対する補助というのは市民から厳しい見え方がするのではないか。補助する立場としてJAに対し意見していただきたいので、これは要望としておく。

<法貴副委員長>

天川農業用共同作業所の除却について、平米単価が大きく異なるのはなぜか。

<農林振興課長>

更地にするための付属物の撤去費用などを含んでいることから単価が異なる。

<法貴副委員長>

跡地の利活用計画はあるのか。

<農林振興課長>

現在のところ利活用の計画はない。

<木村委員長>

有機米の買取り価格は幾らか。

<農林振興課長>

現時点では、1キログラム当たり800円で、30キログラムで2万4,000円になるように買い上げている。

<木村委員長>

生産者に話を聞いていると、除草作業が大変であるが、機械を購入しても今後補助がなくなった場合の懸念があると聞く。今後いつまで続ける計画か、目標値などはあるか。

<農林振興課長>

亀岡市有機農業推進実施計画では、令和9年度までに市立小学校における給食への有機米導入率が50%になることを目標としている。

<木村委員長>

目標を達成した後も、学校給食は有機米で続けるという認識でよいか。

<農林振興課長>

現時点ではその方向性で考えている。

[産業観光部退室]

10:36

[まちづくり推進部入室]

[まちづくり推進部所管議案審査]

・まちづくり推進部長あいさつ

(1) 第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計補正予算(第4号)

・所管課長順次説明(歳出歳入一括)

10:41

[質疑]

<片山委員>

公有財産購入費の内訳として、面積や平米単価は幾らか。

<桂川・道路交通課長>

買い戻す土地は5筆で面積が1,874.33平方メートルである。単価としては、地目が農地のものなどもあるため異なるが、4万8,500円から9万4,000円である。

<片山委員>

市街化区域の土地であるのか。

<桂川・道路交通課長>

すべて市街化区域内の土地である。

10:42

(2) 第46号議案 市道路線の認定について

・土木管理課長説明

10:43

[質疑なし]

[まちづくり推進部退室]

10:44

[委員間討議なし]

3 討論～採決

[討論なし]

[採決]

- ・第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計補正予算（第4号）所管分

可決・全員

- ・第46号議案 市道路線の認定について

可決・全員

[指摘要望等]

<木村委員長>

委員長報告の作成に当たり、指摘要望等があればお願いする。

(意見なし)

<木村委員長>

委員長報告の文言等は、正副委員長に一任願う。

(全員了)

10:48

4 その他

(1) 議会だよりの掲載内容について

<木村委員長>

スペースの都合上、本日審議した内容から1～2項目程度になるが、意見を願います。

<齊藤委員>

有機米の生産が当初見込みよりも多くなったことを記載してはどうか。

<小川委員>

有機農業推進事業経費として有機米への支援と畜産堆肥への補助の2事業があるため、どちらも記載してはどうか。

<木村委員長>

有機農業推進事業経費の2事業について掲載することでよいか。

(全員了)

<木村委員長>

文言等は正副委員長に一任願う。

(全員了)

(2) 今後の日程について

<木村委員長>

次回9月26日（火）に委員長報告の確認等を行うのでよろしく願います。

～散会10:55